

第45期

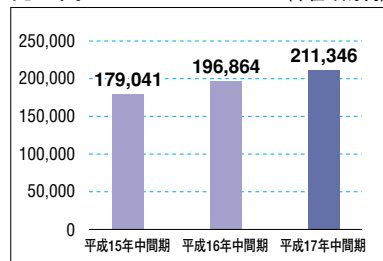
中間事業報告書

平成17年1月1日～平成17年6月30日

連 結

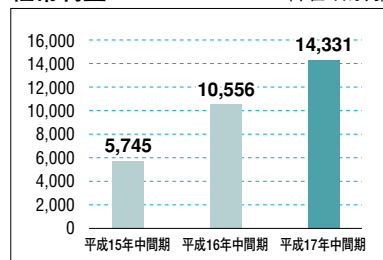
売上高

(単位:百万円)



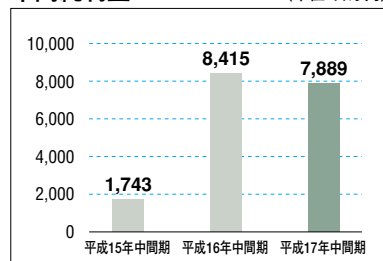
経常利益

(単位:百万円)



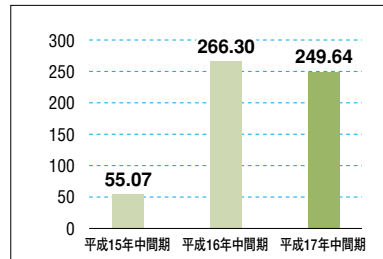
中間純利益

(単位:百万円)



1株当たり中間純利益

(単位:円)



ミッションステートメント

使 命

大塚商会は多くの企業に、情報・通信技術の革新によってもたらされる新しい事業機会や経営改善の手段を具体的な形で提供し、企業活動全般にわたってサポートします。そして、各企業の成長を支援し、わが国のさらなる発展と心豊かな社会の創造に貢献しつづけます。

目 標

- 社会から信頼され、支持される企業グループとなる。
- 従業員の成長や自己実現を支援する企業グループとなる。
- 自然や社会とやさしく共存共栄する先進的な企業グループとなる。
- 常に時代にマッチしたビジネスモデルを創出しつづける企業グループとなる。

行動指針

- 常にお客様の目線で考え、お互いに協力して行動する。
- 先達のチャレンジ精神を継承し、自ら考え、進んで行動する。
- 法を遵守し、社会のルールに則して行動する。



目 次

● 株主の皆様へ	1	● 中間連結財務諸表(要旨)	8
● 営業の概況	2	● 中間個別財務諸表(要旨)	10
● 通期の課題と見通し	5	● 会社の概要・役員	12
● トピックス	6	● 株式の状況	13

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

本中間事業報告書に記載しております業績見通しなど将来についての事項は、予測しえない経済状況の変化などさまざまな要因があるため、その結果について、当社グループが保証するものではありません。

株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また平素より格別のご愛顧とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社グループの平成17年度中間連結会計期間(平成17年1月1日から平成17年6月30日まで)の事業概況をご報告申し上げます。

当中間連結会計期間の売上高につきましては、2,113億46百万円(前年同期比7.4%増)と3期連続の増収となり、過去最高額を更新しました。セグメント別では、システムインテグレーション事業は、カラー複写機やサーバ、情報セキュリティ関連商品の販売が好調に推移し、1,376億4百万円(前年同期比4.9%増)となりました。サービス&サポート事業においては、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」が引き続き好調に推移したことなどにより、728億27百万円(前年同期比13.5%増)と、二桁の増加となりました。

利益につきましては、売上高の対前年同期比7.4%増に対し販売費及び一般管理費の増加を2.5%と抑制できたことなどにより、営業利益141億77百万円(前年同期比34.2%増)、経常利益143億31百万円(前年同期比35.8%増)となり、最高益を更新しました。中間純利益は78億89百万円(前年同期比6.3%減)となりました。これは前年同期に厚生年金基金の代行返上による特別利益を計上した影響によるものです。

当社グループでは今後も「ミッションステートメント」の具現化に努め、皆様の信頼に応えられるよう経営改革を進めてまいります。

通期の連結業績見通しといたしましては、売上高3,986億円(前年同期比7.0%増)、営業利益208億60百万円(前年同期比22.6%増)、経常利益210億70百万円(前年同期比23.7%増)、当期純利益109億30百万円(前年同期比2.8%減)を計画しております。

株主の皆様にはより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成17年9月

取締役社長 大塚 裕司

営業の概況

景気は緩やかな回復へ

当中間連結会計期間(平成17年1月1日～平成17年6月30日)におけるわが国経済は、原油等の原材料価格高騰や中国向け輸出の伸び悩みなど一部のリスク要因はあるものの、大手製造業の好調維持に加えて大手非製造業や中小企業の景況感も全体としては好転しつつあり、雇用情勢の改善により個人消費にも明るさが見えはじめるなど、国内景気は踊り場から緩やかな回復に向かって底堅く推移していると推察されます。

企業のIT投資は堅調に推移

当社グループの属するIT関連業界におきましては、好調な企業業績を背景に、4月1日の個人情報保護法全面施行により企業における情報セキュリティ対策投資が本格化したことに加えて、システム更新需要の継続やIT投資促進税制等の支援策などにより、企業におけるIT投資は引き続き堅調に推移しました。しかしその一方でお客様は、費用対効果の明確化、導入・運用コストの削減、個々のお客様の状況にマッチした付加価値の高い提案を求めており、システムの受注競争は依然厳しいものがあります。また、エンジニア単価の見直し要求も強く、パソコンのハードウェア単価も引き続き低下傾向にあります。

お客様のコスト削減、生産性向上を支援

このような状況の中で、当社グループでは「お客様と共に成長し、信頼に応える」を平成17年度のスローガンとし、独自開発の顧客管理および営業支援システム「SPR」を機能強化するとともに活用促進を図り、お客様が抱える課題の解決を通じて顧客との取引拡大ならびに新規顧客開拓に注力いたしました。

SPR : Sales Process Re-engineering の略称

当社独自開発の CRM + SFA システム
(顧客管理) (営業支援)

お客様のプロフィールを正確に知る

お客様との取引履歴(過去)を知る

お客様への提案状況(現在)を知る

お客様の要望・ニーズ(未来)を知る



科学的営業でCS向上と効率アップを同時に実現

具体的には、複写機、コンピュータ、通信機器、回線、パッケージソフト、サプライ、保守サービス等をワンストップで提供できる当社グループの総合力を活かした、複合システム提案やアドオン型統合システム提案を積極的に行い、お客様のコスト削減、生産性向上、ビジネスチャンス拡大等を支援いたしました。また、情報セキュリティ関連事業やオフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」等の重点戦略事業に引き続き注力しました。



たのめーるカタログ Vol.14



インターネットたのめーる
<http://www.tanomail.com>

売上高7%増収

営業利益34%、経常利益35%増益

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高2,113億46百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益141億77百万円(前年同期比34.2%増)、経常利益143億31百万円(前年同期比35.8%増)と増収増益となりました。中間純利益は78億89百万円(前年同期比6.3%減)となりました。

中間純利益の減少は、前年第1四半期に厚生年金基金の代行返上に伴う特別利益54億81百万円を計上した影響によるものです。

事業セグメント別の概況

システムインテグレーション事業

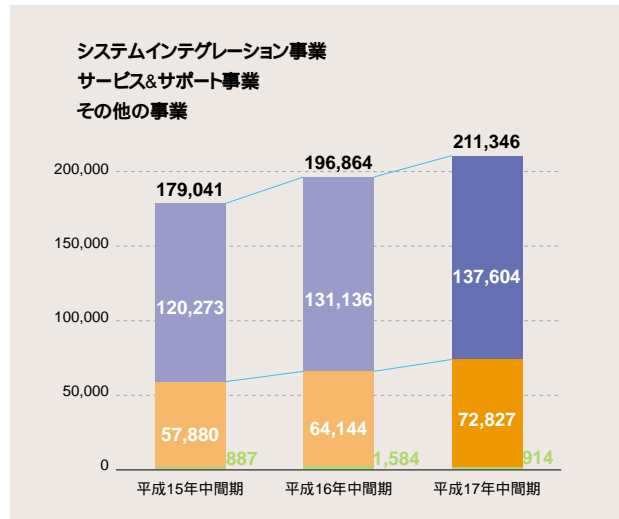
コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、オリジナルのナレッジマネジメントシステム「ODS21」や統合型基幹業務システム「SMILE」に注力した結果、カラー複写機やパソコンおよびサーバの販売が引き続き好調に推移し、売上高は1,376億4百万円(前年同期比4.9%増)となりました。

サービス&サポート事業

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、教育などによりシステム導入後をサポートするサービス&サポート事業では、Webサイトおよびカタログによるオフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」が好調に推移し、OAサプライを中心に引き続き高伸長を続けたことに加えて、保守等も堅調に推移し、売上高は728億27百万円(前年同期比13.5%増)となりました。

事業セグメント別の売上高推移

(単位:百万円)



その他の事業

その他の事業では、株式会社富士見建設の属する建設業界は引き続き厳しい状態にあり、売上高は9億14百万円(前年同期比42.3%減)となりました。

ODS21: 紙文書をデジタル複写機でデータ化し、他のデジタルデータとの一元管理により情報を共有、活用するナレッジマネジメントシステム。

SMILE: 当社オリジナルの統合型基幹業務システム。オフコン時代からの26年にわたる実績を持ち、中堅・中小企業向けのSMILE ADと、大手・中堅企業向けのSMILE ieがあります。

たのめーる: オフィスサプライなどの通信販売事業。

通期の課題と見通し

さらなる企業価値の向上を目指す

今後の経済状況につきましては、原油価格や素材価格の高騰、米国景気の減速や中国経済の成長鈍化による輸出の減少などに加えて、国際的なテロの影響も懸念されるなど、先行き不透明な状況にあります。

そのような状況にあって、積極的にITを活用し経営改善を図ることは、規模の大小を問わず全ての企業に求められています。

当社グループは今後も、中長期的な経営戦略に基づき、複写機からコンピュータ、通信機器、インターネット、回線、サプライ、保守サービスまでを一社で提供できるワンストップソリューション力を活かして「ミッションステートメント」の具現化に努め、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

通期の見通し

以上により、通期の連結業績見通しといたしましては、平成17年7月21日に上方修正いたしましたとおり、売上高3,986億円(前年同期比7.0%増)、営業利益208億60百万円(前年同期比22.6%増)、経常利益210億70百万円(前年同期比23.7%増)、当期純利益109億30百万円(前年同期比2.8%減)を計画しております。

(単位:百万円)

	平成16年12月期	平成17年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
売上高	372,481	398,600	+7.0%
営業利益	17,009	20,860	+22.6%
経常利益	17,036	21,070	+23.7%
当期純利益	11,247	10,930	-2.8%

トピックス

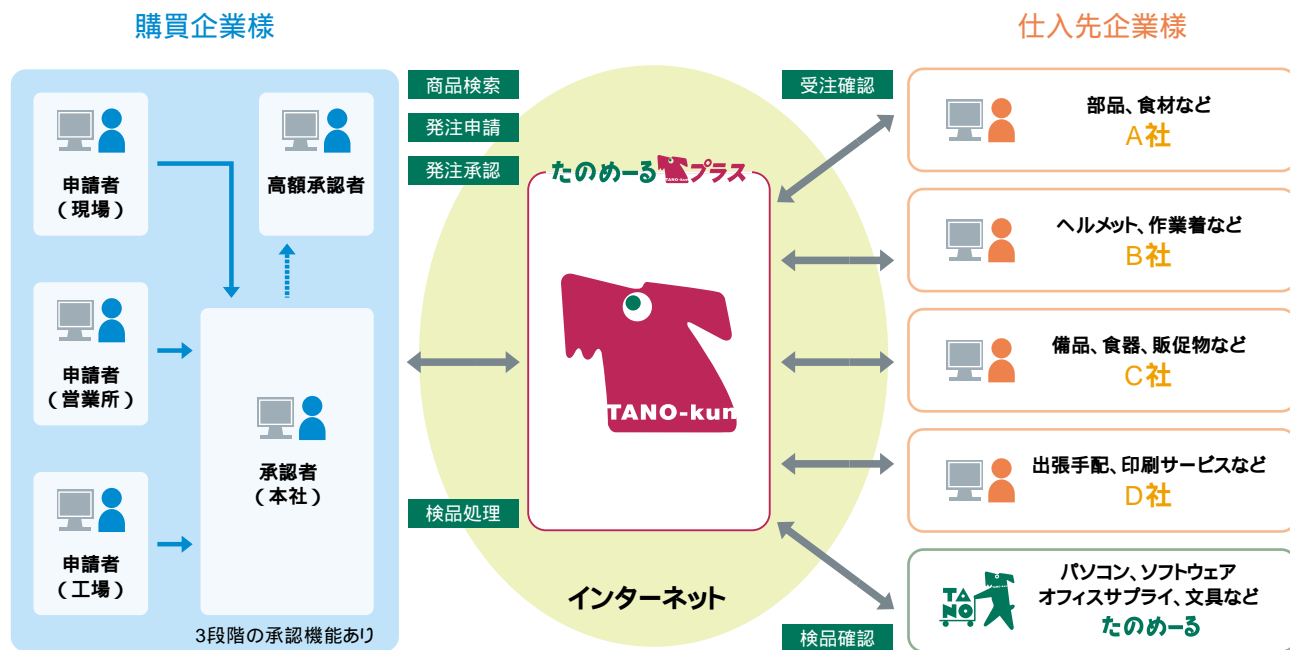
「たのめーるプラス」スタート

<http://it.e-otsuka.com/tanomailplus>

従来、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」で大手企業様向けに提供していたワンストップ調達システムを拡張し、企業の調達業務をサポートする新しいサービス「たのめーるプラス」を開始しました。

お客様は、直接材、間接材を問わず、既存の仕入先企業様との調達業務に「たのめーるプラス」を利用することで、業務の効率化とコストダウンを実現できます。

このサービスは、インターネット経由でシステムをご利用いただき、購買金額に応じた利用料をお支払いいただく方式です。また当社が自社でシステムの開発・運用を行うため、お客様の基幹システムとの連携等も容易です。



コンプライアンス室を新設

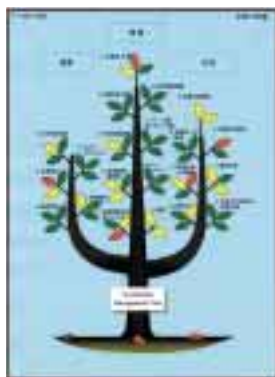
当社ミッションステートメントに基づき、企業の社会的・法的責任をより厳格に果たし、コーポレートガバナンスをさらに強化するため、コンプライアンス室を新設しました。

環境経営格付(第三者機関による環境経営評価)

前年に続き、環境経営格付機構の環境経営(サステナブルマネジメント)格付評価を受け、本年3月に結果が発表されました。

評価結果は、経営、環境、社会の3つの分野に関して、戦略、仕組み、成果の3つの側面から、企業の全体像をツリー図で表します。

今回は、調査の内容がCSR(企業の社会的責任)に重きをおいた内容となり、当社の環境活動への真摯な取り組みや社会貢献活動の推進、また前向きな企業姿勢に対して、前年を上回る高い評価をいただくことができました。



平成15年度ツリー図



平成16年度ツリー図

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)		
期 別 科 目	前中間連結会計期間末 (平成16年6月30日)	当中間連結会計期間末 (平成17年6月30日)
	金 額	金 額
(資産の部)		
流動資産	92,690	103,189
現金及び預金	6,639	11,179
受取手形及び売掛金	61,451	66,128
たな卸資産	15,485	15,307
その他	9,113	10,573
固定資産	80,271	78,957
有形固定資産	56,640	54,018
無形固定資産	6,178	5,253
投資その他の資産	17,452	19,685
資産合計	172,961	182,147

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

現金及び預金が増加

好調な業績を背景に、現金及び預金が前年同期比45億40百万円増加し、111億79百万円となりました。

(単位:百万円)		
期 別 科 目	前中間連結会計期間末 (平成16年6月30日)	当中間連結会計期間末 (平成17年6月30日)
	金 額	金 額
(負債の部)		
流動負債	107,983	108,713
支払手形及び買掛金	60,958	65,896
短期借入金	22,204	11,353
その他	24,819	31,463
固定負債	12,398	11,265
長期借入金	3,038	1,090
退職給付引当金	8,847	9,638
その他	512	536
負債合計	120,381	119,979
(少数株主持分)		
少数株主持分	717	1,239
(資本の部)		
資本金	10,374	10,374
資本剰余金	16,254	16,254
利益剰余金	34,530	43,083
土地再評価差額金	9,504	9,075
その他有価証券評価差額金	442	491
為替換算調整勘定	126	89
自己株式	109	111
資本合計	51,861	60,928
負債、少数株主持分及び資本合計	172,961	182,147

有利子負債が減少

借入金の圧縮を進めた結果、有利子負債(短期借入金および長期借入金)は前年同期比127億99百万円減少し、124億44百万円となりました。

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

期 別 科 目	前中間連結会計期間 (自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	当中間連結会計期間 (自平成17年1月1日 至平成17年6月30日)
	金 額	金 額
売上高	196,864	211,346
売上原価	151,041	161,033
売上総利益	45,823	50,312
販売費及び一般管理費	35,262	36,135
営業利益	10,561	14,177
営業外収益	207	279
営業外費用	211	125
経常利益	10,556	14,331
特別利益	5,580	-
特別損失	2,300	877
税金等調整前中間純利益	13,836	13,453
法人税、住民税及び事業税	2,062	5,946
法人税等調整額	3,220	542
少数株主利益	138	160
中間純利益	8,415	7,889

売上高が増加

カラー複写機やサーバ、情報セキュリティ関連商品の販売が好調に推移し、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」が大きく伸びました。

中間純利益が減少

前年同期に、厚生年金基金代行返上に伴う特別利益54億81百万円を計上しております。

販管費比率が改善

販売費及び一般管理費の伸びを抑制できた結果、売上高販管費比率が前年同期の17.9%から17.1%へ0.8ポイント低下しました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

期 別 科 目	前中間連結会計期間 (自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	当中間連結会計期間 (自平成17年1月1日 至平成17年6月30日)
	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,885	15,267
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,503	2,094
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,266	10,647
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	21
現金及び現金同等物の増加額	2,119	2,546
現金及び現金同等物の期首残高	3,020	7,717
合併による現金及び現金同等物の増加額	60	-
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,200	10,263

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは152億67百万円となり、当中間連結会計期間においても順調に推移しました。投資活動によるキャッシュ・フローは20億94百万円となり、フリー・キャッシュ・フローは、131億72百万円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済を進めたことなどにより、106億47百万円となりました。

中間貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)		
期 別	前中間会計期間末 (平成16年6月30日現在)	当中間会計期間末 (平成17年6月30日現在)
科 目	金 額	金 額
(資産の部)		
流動資産	83,879	93,049
現金及び預金	5,183	8,219
受取手形及び売掛金	56,158	60,822
たな卸資産	13,834	13,900
その他	8,702	10,107
固定資産	81,904	80,193
有形固定資産	56,174	53,457
無形固定資産	5,224	4,371
投資その他の資産	20,505	22,365
資産合計	165,784	173,243

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)		
期 別	前中間会計期間末 (平成16年6月30日現在)	当中間会計期間末 (平成17年6月30日現在)
科 目	金 額	金 額
(負債の部)		
流動負債	102,651	103,641
支払手形及び買掛金	58,978	63,826
短期借入金	19,564	9,066
その他	24,108	30,748
固定負債	11,422	10,023
長期借入金	2,866	750
退職給付引当金	8,129	8,799
その他	426	474
負債合計	114,073	113,664
(資本の部)		
資本金	10,374	10,374
資本剰余金	16,254	16,254
利益剰余金	34,252	41,644
土地再評価差額金	9,504	9,075
その他有価証券評価差額金	442	491
自己株式	109	111
資本合計	51,710	59,578
負債・資本合計	165,784	173,243

中間損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

期 別 科 目	前中間会計期間 (自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	当中間会計期間 (自平成17年1月1日 至平成17年6月30日)
	金 額	金 額
売上高	181,844	196,754
売上原価	139,914	150,825
売上総利益	41,930	45,929
販売費及び一般管理費	32,275	32,971
営業利益	9,654	12,957
営業外収益	316	410
営業外費用	192	94
経常利益	9,778	13,273
特別利益	5,128	-
特別損失	2,967	840
税引前中間純利益	11,939	12,432
法人税、住民税及び事業税	1,820	5,362
法人税等調整額	3,043	328
中間純利益	7,076	7,399
前期繰越利益	1,637	6,345
土地再評価差額金取崩額	2,715	-
中間未処分利益	5,998	13,744

IRサイトのご案内



株式会社大塚商会ホームページ IR情報

当社グループの企業情報、財務情報、株式情報などをご覧いただけます。

- 主な内容:
- 企業情報(企業概要、事業拠点、連結子会社、沿革)
 - IR関連のお知らせ(適時開示情報等)
 - IRライブラリ(有価証券報告書等、決算短信、決算説明会資料、事業報告書、アニュアルレポート等)
 - 財務情報(財務ハイライト、各種経営指標)
 - 株価情報
 - 株式情報(株主構成、株式の手続き)
 - 株主総会情報
 - 決算公告

<http://www.otsuka-shokai.co.jp/ir>

掲載内容は平成17年8月20日現在のものであり、変更する場合があります。

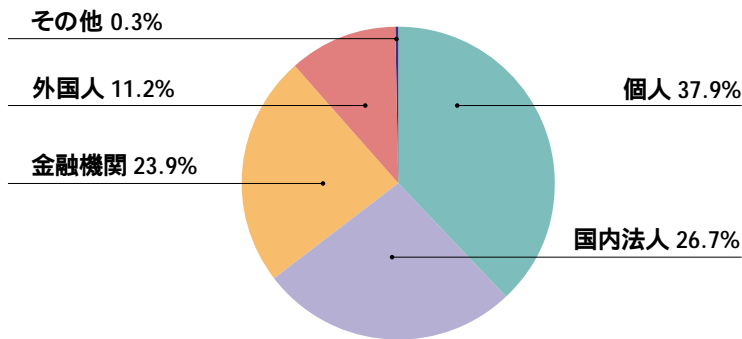
株式の状況(平成17年6月30日現在)

会社が発行する株式の総数	112,860,000株
発行済株式の総数	31,667,020株
1単元の株式の数	100株
株主数	5,787名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)	持株数(株)	議決権比率(%)
大塚装備株式会社	8,112,730	25.67	-	-
大塚 裕司	2,622,580	8.29	-	-
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,186,900	6.92	-	-
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,879,500	5.94	-	-
大塚 実	1,795,490	5.68	-	-
大塚商会社員持株会	1,423,920	4.50	-	-
大塚 厚志	1,155,650	3.65	-	-
大塚 照恵	645,500	2.04	-	-
指定単受託者三井アセット信託銀行株式会社1口	589,800	1.86	-	-
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託B口)	428,600	1.35	-	-

所有者別株式分布状況(株式数ベース)



株主メモ

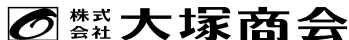
決 算 期	毎年12月31日
定 時 株 主 総 会	毎年3月
基 準 日	毎年12月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
配当金受領株主確定日	毎年12月31日および中間配当金の支払いを行うときは6月30日
名 義 書 換 代 理 人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 所	
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 03-3323-7111(代表)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
決 算 公 告 掲 載	大塚商会ホームページに掲載 http://www.otsuka-shokai.co.jp/ir/kessan/index.html
その他の公告掲載紙	日本経済新聞

お届けの住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式の買取請求書、株式名義書換請求書のご請求につきましては、名義書換代理人のフリーダイヤルおよびホームページでも受付けております。

フリーダイヤル(通話料無料): 0120-87-2031

ホームページ:http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

(証券保管振替制度をご利用の方は、お取引口座のある証券会社等へご照会ください。)



〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 TEL. 03-3264-7111

<http://www.otsuka-shokai.co.jp>

